

病理診断科

部長 中嶋 絢子

I. 職員構成

2025 年 12 月現在、中嶋が常勤として勤務しており、2025 年度は非常勤として、高知大学の戸井慎医師（金曜午前、病理専門医、指導医）、和田倫子医師（水曜午前、病理専門医、指導医）、筒井美帆医師（月曜午後、病理専門医）、黒江嵩史医師（第 2・4 木曜、病理専門医・指導医）も診療応援をしていただきました。

病理診断科では従来の組織診断に加えて、がんの診断・治療方針の決定に関わるゲノム診断の重要性が急速に拡大してきており、今後さらに治療側の医師や患者側からの要望は増し、病理医および病理検査に専従する臨床検査技師の業務量は年々増加しています。

●病理医 5 名（常勤 1 名、非常勤 4 名）

常 勤 部長 中嶋 絢子

死体解剖資格, 病理専門医, 研修指導医, 細胞診専門医, 分子病理専門医

非常勤 戸井 慎（高知大学医学部附属病院病理診断部 准教授）

死体解剖資格, 病理専門医, 研修指導医, 細胞診専門医, 分子病理専門医

筒井 美帆（高知大学医学部病理診断部医員）

死体解剖資格, 病理専門医, 細胞診専門医

和田 倫子（高知大学医学部病理診断部医員）

死体解剖資格, 病理専門医, 細胞診専門医

黒江 崇史（高知大学医学部医学教育医員）

死体解剖資格, 病理専門医

●臨床検査技師 5 名

副部長 橘 知佐 細胞検査士 認定病理検査技師 消化器内視鏡技師

島崎 真由 細胞検査士 認定病理検査技師 消化器内視鏡技師

今本 隼香 細胞検査士 認定病理検査技師 消化器内視鏡技師

尾崎 綾乃 細胞検査士 認定病理検査技師 消化器内視鏡技師

久保 唯 細胞検査士 認定病理検査技師

※当直業務、内視鏡センター部門の業務をローテーション方式で兼担しているため、通常 2～3 人体制で病理業務を遂行しています。

●クラーク 5 名

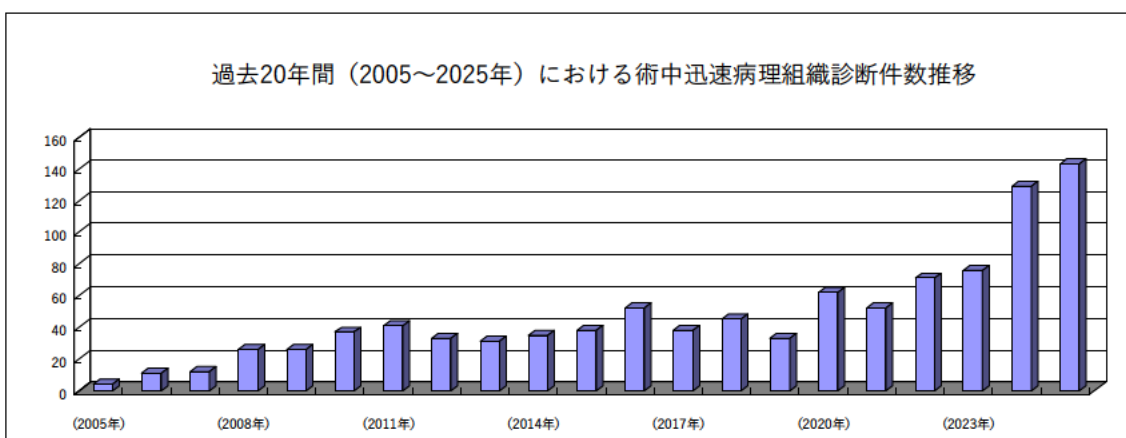
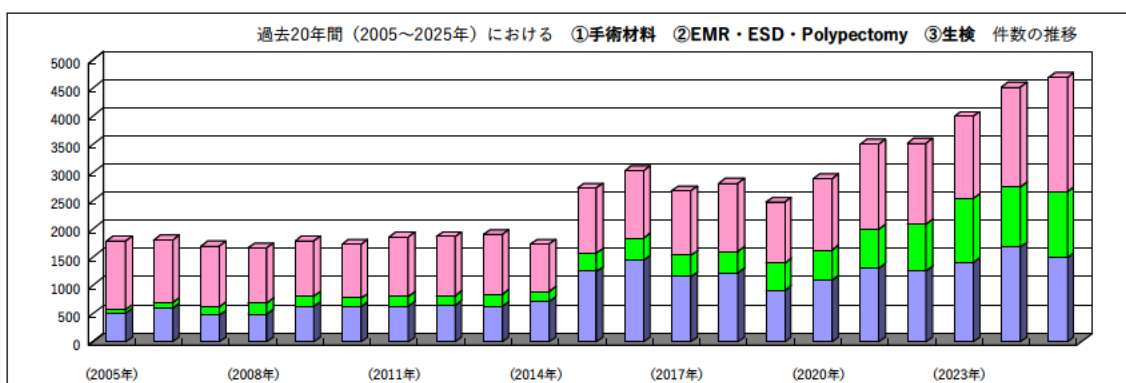
白川葉子、真鍋厚美、上田亜耶、古味善美、志手千鶴

※ローテーション方式 通常は 1 名

当院の病理診断科の特徴としては、①乳腺外科の開設にともない検体数が迅速診断を含めると年間約 4800 件（2020 年は年間約 3000 件）に増加したこと、②他院と比較して産婦人科、耳鼻科、口腔外科がないことで病理に提出される臓器の種類が限られており、比較的効率的に検体の処理や診断業務が行えること、③臨床検査技師が内視鏡検査と病理を兼任していることで内視鏡室からの検体の流れがスムーズであることです。

【 診療実績 】

2025 年（1 月から 12 月）は、乳腺外科の開設により 2023 年との比較では特に組織診、迅速診断が急増していますが、2024 年との比較では全体的に微増傾向でした。



Ⅱ. 担当業務

概説：2025 年の通常担当業務量は 10 年前と比較して、病理組織診断件数は倍増しており、増加傾向です。細胞診断件数は約 500 件増加しています。剖検数は 8 例（剖検率 2.2%）であり、病理部門が中心となり所見の整理および CPC を実施し、臨床研修医教育に活用させていただきました。

初期臨床研修での病理解剖に関する必修項目を完全に充足するため、各研修医は病理解剖に立ち会い、剖検所見の記載を経験してもらっています。月例 CPC においては、主治医の指導の下に症例を考察し、症例提示や質疑応答を行います。最終的に、CPC レポートの作成を行い、これらの病理解剖症例の一連の研修としています。

さらに本年は、2名の初期臨床研修医が病理診断科で選択研修（合計4週間）を行い、初期臨床研修医に対する外科病理学の有意義かつ適切な教育、指導が病理診断科の新しい業務として継続されています。

①病理組織診断の実績

- 2025年の病理組織診断件数合計4686件のうち、手術材料の診断件数は1492件、内視鏡による消化管のポリペクトミー、EMRおよびESDの合計件数の診断件数は1166件、生検組織の診断件数は2028件でした。術中迅速診断は143件でした。
- 生検組織合計2028例中、EGD生検（食道、胃、十二指腸、主に胃粘膜生検組織）は623例（約30.7%）、CS生検（大腸粘膜生検組織）は576例（約28.4%）であり、両者の合計1199例は生検組織中約59.1%を占めています。
- 手術材料ならびに消化器（polypectomy、EMR、ESD）材料の診断件数合計2658例のうち、悪性腫瘍は691例（約26.0%）を占めています。
- 2024年4月に乳腺外科が開設されたことにより、迅速病理組織診断件数が年々増加しています。また、Roche社の免疫組織化学染色装置VENTANAを導入後の実績について、2025年の免疫染色実績は、CLDN18が26件、MMRが120件、HER2が224件でした。

②細胞診の実績

細胞診断件数1216例の内訳として、ClassⅠが762例（62.7%）と最多を占め、以下、ClassⅡ 165例（13.6%）、ClassⅢ 47例（3.9%）、ClassⅢa 0例（0%）、ClassⅢb 6例（0.5%）、ClassⅣ 22例（1.8%）、ClassⅤ 204例（16.8%）、判定不能10例（0.8%）でした。

③病理解剖

病理解剖は1年間を通して、原則、平日および土曜日9時から17時までを解剖受付時間として実施しました。2025年は、8症例について御遺族から剖検の御承諾をいただき、剖検率は平均2.2%でした。

剖検が無かったのは1月、2月、3月、4月、7月、8月で、もっとも件数が多い月で、11月には3例実施しました。

④院内CPC（Clinico-Pathological Conference：臨床病理検討会）

院内CPCの参加者数は平均22名（最小15名、最大29名）でした。また、2025年は新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いたことから、通常開催として実施しました。

Ⅲ. 医学教育支援

- ・ 中嶋 絢子：研修医指導
初期臨床研修医 2 名（選択研修 1 ヶ月 2025 年 3 月、12 月）
- ・ 吾妻 美子（臨床検査技師）：近森病院附属看護学校 病理学講義担当
2025 年 6 月 3 日～7 月 22 日 90 分/8 回（試験含む） 合計 12 時間
- ・ 今本 隼香（臨床検査技師）：学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校
臨床放射線・検査 病理学的検査講義担当 2025 年 10 月 21 日 90 分 非常勤講師

※学術発表・講演会等

学会発表演題	発表者 共同 研究者	学会名	開催
A case suspected celiac disease specific to japanese	中嶋絢子	第 14 回日本病理学会総会 仙台	2025.04.17-19
ワークショップ タスクシフト／シェア 広がる病理技師の活躍の場 「内視鏡検体採取」	今本隼香	第 74 回日本医学検査学会 大阪	2025.5.10-11
「やってみたら凄かった！ 迅速フィルム法」	島崎真由	令和 7 年度 高臨技学術部研修会 高知医療センター	2025.7.12
「内視鏡診療における多職種連携医療で 病理検査技師に求められる役割」	今本隼香	第 21 回 四国消化器内視鏡技師学会 徳島	2025.9.21
「使えるAIで日常も仕事もスマートに ～ChatGPTとCanvaの活用法」	島崎真由	生成AI活用チャレンジ 2025 あなたの挑戦が未来をかえる 近森病院	2025.10.4
「ROSEを用いた肺癌遺伝子検査におけ るGM管コンパクトパネルの有用性」	島崎真由	第 64 回臨床細胞学会秋期大会 広島	2025.11.29-30